

安心・安全のまちづくり

セーフコミュニティ



WHO Collaborating Centre on
Community Safety Promotion



京都府

亀岡市

セーフコミュニティとは…

セーフコミュニティとは、事故やけがは偶然に起こるのではなく、予防できるという理念のもと、行政と地域住民など多くの主体の協働により、全ての人たちが安心して安全に暮らすことができるまちづくりを進めるものです。

これはWHO（世界保健機関）が「世界中の人を健康に」という取組を進めるなかで、日々の生活において「安全」が健康に大きな影響を与えることに着目したのが始まりです。

そこで、地域の人たちが協働で安全な環境づくりに取り組んでいたスウェーデンの小さなまちの試みをモデルとして、地域の誰もがいつまでも安全に暮らせるまちをつくろうという取組になったのが「セーフコミュニティ」です。

すでに取り組まれている高齢者の転倒を防止するための「健康づくり体操」、市民の皆さんの手で子どもを守る「子ども110番のいえ」や「子ども・地域安全見守り隊活動」、地域を災害から守る「自主防災組織活動」などは、セーフコミュニティ活動につながる活動です。

WHO協働センターによる認証制度とその基準

セーフティプロモーション（人々が平穩に暮らせるようにするため、事故や暴力、その結果としての外傷や死亡を、協働で、科学的に評価可能な手法により予防しようという取組）に取り組む地域をWHOCC（WHOセーフコミュニティ協働センター）がセーフコミュニティとして認証しています。WHOCCでは、認証のための6つの指標を定め、この指標を満たしているかを申請書と現地審査により確認を行い認証を行います。

認証は、事故やけがが減少したかどうかを見るのではなく、地域住民、行政、企業など様々な主体が連携・協働し、安全な地域づくりに取り組む状態になっていることにより与えられます。

6つの認証基準

- 1 安全に関わる分野の横断的な推進体制を構築し、住民との協働に基づく活動基盤を持つこと
- 2 すべての年齢層、性別、環境及び状況をカバーする長期的かつ持続可能なプログラムを持つこと
- 3 ハイリスクグループ（高い外傷受傷率を示す層）や環境を対象とするプログラム及び被害を受けやすい弱者グループ（高齢者や子ども、障害者等）のための安全を促進するプログラムを持つこと
- 4 外傷の頻度と原因を記録するプログラムを持つこと
- 5 プログラム、プロセス（取組の過程）、変化の諸効果を測定するための評価基準を持つこと
- 6 国内外のセーフコミュニティのネットワークに継続的に参加していること

目次 / INDEX

I. セーフコミュニティの概要について	…1
II. セーフコミュニティ活動が対象とする外傷について	…1
III. 全国の不慮の事故の現状及び京都府・亀岡市の外傷発生状況等について	…2
IV. セーフコミュニティ認証指標にもとづく取組について	…3
V. セーフコミュニティ活動による効果について	…5
VI. セーフコミュニティの取組に対する京都府の支援について	…6

I. セーフコミュニティの概要について

セーフコミュニティ活動の手段と特徴

行政や地域の住民をはじめ、企業や組織、団体等と一緒に「みんなが事故、自殺、犯罪がなく、安心して暮らしていくにはどうすべきか。」を考えるなかで、一人ひとりが「気づき」を持ち、自主的な活動へとつなげていきます。

また、データや記録から、事故などが「いつ」「どこで」「どのように」発生したかを調べ、対策に反映させるとともに、効果を検証し、評価をしていくことが大きな特徴です。

国内初のWHO協働センターセーフコミュニティ認証取得

事故やけがを予防し、誰もが安心して安全に暮らせる「セーフコミュニティ」に取り組む亀岡市は、平成20年3月1日、世界132番目、日本初のWHOセーフコミュニティ協働センターによる国際認証を取得しました。



国内におけるセーフコミュニティ認証都市

都市名	亀岡市	十和田市	厚木市
都道府県	京都府	青森県	神奈川県
認証No.	No.132	No.159	No.223
認証年月日	H20.3.1	H21.8.29	H22.11.19
特徴	住民による地域おこし“地域力”の向上や地域コミュニティの醸成を図っていく契機的活動として取組を推進。	ボランティア組織による安全安心のまちづくり活動を原動力として、自殺予防や高齢者の事故予防対策を推進。	「交通事故」、「体感治安不安感」、「高齢者の事故やけが」、「自殺」を基軸とした改善を目指し、生活の質の向上対策を推進。

II. セーフコミュニティ活動が対象とする外傷について

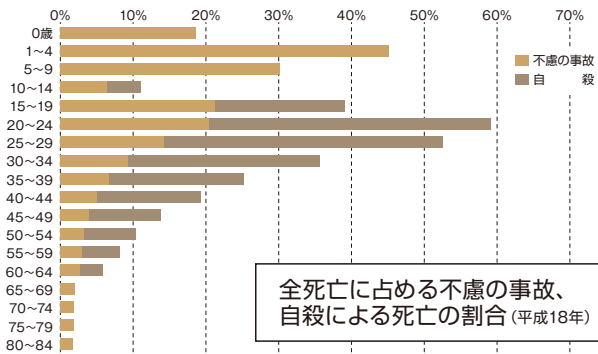
セーフコミュニティ活動が対象とする「外傷」とは…

セーフコミュニティでは、次の表のような、事故によるけが、犯罪・暴力、自殺など、私たちの安心・安全な暮らしを脅かす全ての事象を対象とします。これは、これらの事故や犯罪などは、不運や偶然の結果ではなく、防止のためのプログラムの作成と実施により予防可能であるという考えに基づいています。

	子ども	青少年	成年	高齢者
生活環境 (不慮の事故)	家庭 風呂でのでき水、やけど	やけど	火事、転倒	転倒
	学校 学校での事故やけが	学校での事故やけが		
	職場 公園でのけが、プールでのでき水	アルバイト先の事故	職場での事故労働、環境問題	作業中のけが
	余暇 登下校の事故	運転中のけが	レジャーの事故	転倒
	交通 暴力	自転車の事故、登下校の事故	バイク・車の事故、移動中のけが	歩行中の転倒
意図的 要因	自殺 児童虐待	非行・家庭内暴力	DV	高齢者虐待
	いじめ	いじめ	心の健康(うつ)	心の健康(うつ)
その他	障害のある人が安心して生活する上での課題、災害予防			

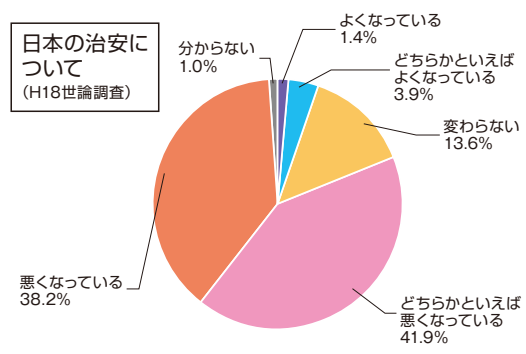
Ⅲ. 全国の不慮の事故の現状及び京都府・亀岡市の外傷発生状況等について

全死亡(全国)に占める不慮の事故・自殺による死亡の割合



厚生労働省の「不慮の事故・自殺による死亡の割合」調査によると、次世代を担う子ども・若者の多くが、家庭内または通学時などの不慮の事故、自殺で命を失っています。また高齢者の多くが転倒・骨折などによる不慮の事故が原因で介護が必要となっています。

アンケートからみる体感治安不安感



総務省の日本の治安に対する世論調査によると、「悪くなっている」、「どちらかといえば悪くなっている」と答えた人が約8割を占め、国民の多くが日本の治安は悪化していると感じているという結果が出ています。

亀岡市の死亡原因別死者数 (2007~2009)

死亡原因	死者数(人)	人口10万人当たり死者数		
		年平均(人)	死亡率	構成比(%)
総数	2,070	690	739	
1位 悪性新生物	615	205	220	29.7%
2位 心疾患(高血圧性を除く)	381	127	136	18.4%
3位 脳血管疾患	250	83	89	12.1%
4位 肺炎	194	65	69	9.4%
上位5位 不慮の事故	69	23	25	3.3%
6位 その他の呼吸器系の疾患	59	20	21	2.9%
7位 老衰	56	19	20	2.7%
8位 自殺	53	18	19	2.6%
9位 腎不全	47	16	17	2.3%
10位 その他の新生物	30	10	11	1.4%

【京都府統計表・京都府人口動態統計】

全国の死亡原因別死者数 (2007~2009)

死亡原因	死者数(人)	人口10万人当たり死者数		
		年平均(人)	死亡率	構成比(%)
総数	3,392,661	1,130,887	898	
1位 悪性新生物	1,023,385	341,128	271	30.2%
2位 心疾患(高血圧性を除く)	538,069	179,356	142	15.9%
3位 脳血管疾患	376,338	125,446	100	11.1%
4位 肺炎	337,398	112,466	89	9.9%
上位5位 不慮の事故	113,702	37,901	30	3.4%
6位 老衰	105,358	35,119	28	3.1%
7位 自殺	91,705	30,568	24	2.7%
8位 腎不全	66,873	22,291	18	2.0%
9位 肝疾患	48,400	16,133	13	1.4%
10位 慢性閉塞性肺疾患	45,766	15,255	12	1.3%

【厚生労働省人口動態統計】

京都府の死亡原因別死者数 (2007~2009)

死亡原因	死者数(人)	人口10万人当たり死者数		
		年平均(人)	死亡率	構成比(%)
総数	68,825	22,942	872	
1位 悪性新生物	21,287	7,096	270	30.9%
2位 心疾患(高血圧性を除く)	11,683	3,894	148	17.0%
3位 肺炎	6,811	2,270	86	9.9%
4位 脳血管疾患	6,805	2,268	86	9.9%
上位5位 その他の呼吸器系の疾患	2,568	856	33	3.7%
6位 老衰	1,876	625	24	2.7%
7位 不慮の事故	1,760	587	22	2.6%
8位 自殺	1,710	570	22	2.5%
9位 腎不全	1,491	497	19	2.2%
10位 その他の消化器系の疾患	1,257	419	16	1.8%

亀岡市の2007年~2009年の死者数は2,070人であり、年平均で約690人が死亡しています。

そのうち、不慮の事故では、その3.3%にあたる23人が、また、自殺では、2.6%にあたる18人が死亡しています。

これらについて、京都府全体の同年間の死亡率と比較すると、10万人当たり死者数は、不慮の事故がプラス3人、自殺はマイナス3人となっています。

また、全国との比較では、不慮の事故、自殺ともマイナス5人となっています。

なお、亀岡市における2003年~2005年と比較すると、不慮の事故がプラス1人、自殺はプラス2人となっています。

亀岡市における不慮の事故及び自殺を原因とする死亡状況は、全国との比較ではやや低い状況にあるものの、京都府内では、不慮の事故がやや高い水準にあり、引き続きセーフコミュニティ活動の推進による死者数の抑制・減少が求められています。

IV. セーフコミュニティ認証指標にもとづく取組について (亀岡市の事例)

指標1 安全に関わる分野の横断的な推進体制を構築し、住民との協働に基づく活動基盤を持つこと

◎亀岡市セーフコミュニティ推進協議会の設置

亀岡市では、セーフコミュニティを推進する母体として、自治会・消防・警察・医療機関・教育機関等のトップメンバーによる横断的な連携組織を設置しています。推進協議会では、各施策についての方針決定や情報共有、また協力体制の確認などを行っています。



指標2 すべての年齢層、性別、環境及び状況をカバーする長期的かつ持続可能なプログラムを持つこと

◎亀岡市民の安全・安心な生活を実現するために、次のようなセーフコミュニティ活動を協働で実施しています。

[亀岡市セーフコミュニティ活動]

防災情報亀岡メール・学校安全メールの配信
 バリアフリーマップ・ハザードマップの作成
 青色防犯パトロール車による防犯巡回
 かめおかヘルスキャンパス

[モデル地区セーフコミュニティ活動]

セーフコミュニティワークショップの開催
 地域安全・魅力マップ作成活動の実施
 10,000人のパトロール隊活動
 セーフティキッズプログラム



指標3 ハイリスクグループや環境を対象とするプログラム及び被害を受けやすい弱者グループのための安全を促進するプログラムを持つこと

◎亀岡市において高い外傷状況・率を示している子どもや高齢者に対して、重点的に対策を講じています。

[亀岡市セーフコミュニティ活動]

地域子ども出迎えデーの実施
 “命のカプセル(救急医療情報キット)”配布事業

[モデル地区セーフコミュニティ活動]

高齢者見守り“あいあいネットワーク”活動
 なんとん元気づくり体操



指標4 外傷の頻度と原因を記録するプログラムを持つこと

◎亀岡市では、消防署や警察署、また市内医療機関の協力のもとに、次のような外傷データを把握し、その推移や状況を記録しています。

把握・記録内容	算定資料・調査
傷病・外因別死亡者数	人口動態統計
交通事故(年齢別・環境別・状況別)死亡者・負傷者数	交通統計
火災等による死亡者・負傷者・救急搬送者数	消防統計
自然災害による死亡者数	災害統計
各種犯罪認知件数	警察データ
学校安全メール配信件数	教育委員会データ
児童虐待相談件数	児童相談所データ
外傷(交通事故・自損行為・労働災害・自然災害・運動競技等)受傷動向	外傷発生動向調査
セーフコミュニティに対する意識・外傷受傷動向・体感治安不安感	亀岡市セーフコミュニティアンケート調査
メンタルヘルス施策・職場環境・労働者の生活習慣	亀岡市企業・事業所メンタルヘルス調査
住民の生活習慣・ストレス解消法・うつ病に対する認識	亀岡市川東5町心の健康に関する調査
高齢者の歩行能力・身体能力	高齢者転倒予防調査
余暇(スポーツ)時外傷受傷動向・子どもの生活習慣	余暇(スポーツ)外傷予防調査
地域セーフコミュニティ活動(MAP作成活動)に対する効果・評価測定	篠町セーフコミュニティアンケート調査
地域セーフコミュニティ活動(MAP作成活動)に対する効果・評価測定	保津町セーフコミュニティアンケート調査

指標5 プログラム、プロセス(取組の過程)、変化の諸効果を測定するための評価基準を持つこと

◎セーフコミュニティ活動を推進するためには、計測可能なゴールを設定することが必要です。亀岡市では、各種の安全安心活動に関わって、次のような目標を設定するとともに、活動の前後における意識の変化や効果を測定しています。

評価基準とする指標	現 状	目 標
不慮の事故による外傷数	中長期的な数値目標としてH16年数値から3割削減	
救急搬送件数(外傷分)	863件(H21)	減少(H27)
交通事故死傷者数	580人(H21)	減少(H27)
街頭犯罪認知件数	513件(H21)	減少(H27)

指標6 国内外のセーフコミュニティのネットワークに継続的に参加していること

◎亀岡市のセーフコミュニティ活動の普及・啓発を図るとともに、国内外のネットワークメンバーとの交流を図るため、次のような国内・国際会議に参加しています。

H19.6.11	第16回セーフコミュニティ国際会議	イラン(テヘラン)
H19.11.22	第4回アジア地域セーフコミュニティ国際会議	タイ(バンコク)
H21.8.28	第3回日本セーフティプロモーション学会	日本(十和田市)
H22.3.23	第19回セーフコミュニティ国際会議	韓国(スウォン)
H22.11.19	市民安心・安全フェスタ	日本(厚木市)



◎また、全国各地から多くの行政関係者や地域活動団体に対して、情報提供を行っています。

	視察団体数	視察人数	視察団体内訳(視察団体数)
H20年度	17団体	144名	市町村関係(14)、その他地域活動関係等(3)
H21年度	23団体	274名	国関係(2)、都道府県関係(4)、市町村関係(12)、その他地域活動関係等(5)
H22年度 (H22.12.31時点)	27団体	218名	都道府県関係(1)、市町村関係(20)、その他地域活動関係等(6)
合 計	67団体	636名	国関係(2)、都道府県関係(5)、市町村関係(46)、その他地域活動関係等(14)

V. セーフコミュニティ活動による効果について

亀岡市におけるセーフコミュニティ活動効果

効果1 外傷状況から見るセーフコミュニティ取組効果

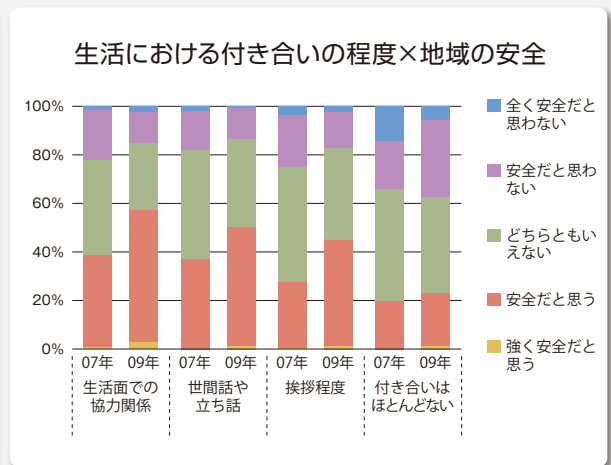
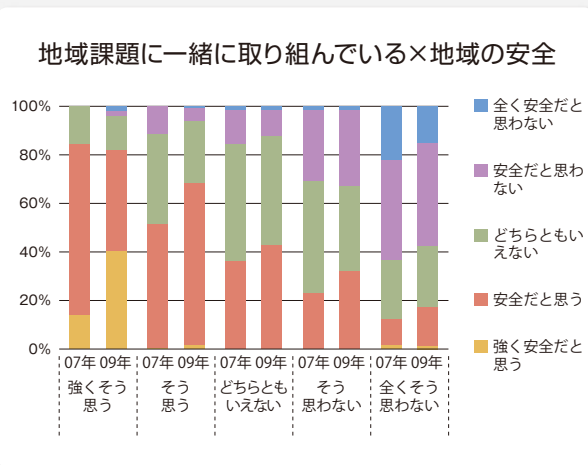
◎亀岡市において、セーフコミュニティ活動に取り組んで以降の外傷状況は、次のとおり概ね減少傾向を示しており、セーフコミュニティ活動による外傷予防活動・安心安全なまちづくり活動による効果が推測できます。

	H18	H19	H20	H21		H18	H19	H20	H21
刑法犯認知件数(件)	1,396	1,351	1,391	1,122	交通事故発生件数(件)	578	678	519	467
街頭犯罪認知件数(件)	713	683	607	513	交通事故負傷者数(人)	725	825	630	577
侵入犯罪認知件数(件)	73	88	50	45	交通事故死者数(人)	4	2	8	3
自殺者数(人)(亀岡署取扱)	26	23	21	17	不審者情報発信件数(件)	11	8	11	11

資料：京都府警察

効果2 アンケート結果から見るセーフコミュニティ取組の効果

◎地域活動への参加傾向や体感治安などの意識評価を図るアンケート調査では、セーフコミュニティ活動を通して、地域福祉の向上や安全意識の醸成につながっていることが推測できます。



資料：篠町セーフコミュニティアンケート調査

効果分析と課題

セーフコミュニティ活動については、その認証取得を契機に一層の外傷予防対策を講じるとともに、各種外傷状況調査や意識調査等により、その評価や効果測定を行っています。

これまでの効果としては、上記にあるように、セーフコミュニティ理念への賛同や外傷予防に対する意欲的な回答や意見の増加、また、地域活動への関心度・参加頻度の向上等が挙げられます。

これらをもとに、更なる安全・安心のまちづくり活動の充実に向けて、分析した外傷データの地域活動への効果的な反映策が今後の活動の基点と考えています。



亀岡市観光マスコットキャラクター「明智かめまる」

Ⅵ. セーフコミュニティの取組に対する京都府の支援について

京都府では、地域の安心・安全な地域の活動に対して、これまで、次のような支援を行ってきました。

子ども・地域の安心・安全活動支援事業（京都府府民生活部安心・安全まちづくり推進課）

小学校の登下校時の立ち番、付添、パトロール等を行う、自治会やPTA、防犯推進委員などで構成される概ね10人程度以上で活動する団体（子ども・地域安全見守り隊）に対し、申請団体の人員に応じて、活動用資機材の交付やボランティア保険の加入に対して支援。



子ども・地域安全見守り隊の活動の様子

京都府地域力再生プロジェクト支援事業（京都府府民生活部府民力推進課）

地域住民団体が主体的に実施する防災・防犯活動、共助型福祉活動等セーフコミュニティに関わりのある事業に対して支援を実施。



「亀岡市保津町自治会」
保津町街づくりプランKI・ZU・NA
(安全安心マップ作成)



「元気サークルお〜い」
南丹元気づくり体操
(転倒予防体操)

府民公募型安心・安全整備事業（京都府建設交通部監理課）

京都府が管理する道路や河川等を対象に、身近な安心・安全につながる小規模な改修工事や修繕工事を、府民からの公募により、審査委員会を経て実施。

歩道の整備や段差解消、道路脇の溝蓋設置、信号機や横断歩道の設置などを実施、道路での転倒防止等の事故予防や交通事故防止につながっています。



【工事実施例】道路脇の溝蓋設置

※最新の情報については、各担当課までお問い合わせください。

このほか、事故等に関する各種データの収集方法をはじめセーフコミュニティの取組に向けたアドバイスのほか、セーフコミュニティに関わる研究者や関係機関等を紹介させていただきます。



安心・安全のまちづくり

セーフコミュニティ

誰もが笑顔で
暮らせますように…



問い合わせ

京都府

府民生活部 安心・安全まちづくり推進課

TEL 075-414-4367

FAX 075-414-4255

E-mail anshinmachi@pref.kyoto.lg.jp

亀岡市

企画管理部 企画政策課

TEL 0771-25-5006

FAX 0771-24-5501

E-mail 1sc2008@city.kameoka.kyoto.jp